

令和7年度

【中部経済産業局 中部のホンモノ体験の造成、商品化、需要
開拓を促進するためのネットワーク構築の有効性の検証事業】

事業報告書

令和8年2月

株式会社ナビタイムジャパン

目次

1. 業務概要・実施方針	2
1.1 本事業の目的・背景.....	2
1.2 「中部のホンモノ体験」の定義.....	3
1.3 観光コーディネート機関（人材）の必要性.....	3
1.4 事業の全体構成.....	3
1.5 事業実施体制.....	5
2. 案件 A：職手継祭（してつさい）の実施管理業務	5
2.1 開催概要.....	5
2.2 出展事業者への支援およびマッチング.....	6
2.3 会場設計.....	7
2.4 当日プログラムの詳細.....	7
2.5 当日プログラムの実施結果.....	15
3. 案件 B：モニターツアーの実施管理業務	16
3.1 開催概要/実施目的.....	16
3.2 モニターツアー行程.....	18
3.3 モニターツアーストーリーブック.....	19
3.4 行程の詳細.....	22
3.5 アンケート集計.....	35
4. 案件 C：地域内ネットワークの形成業務	47
4.1 開催概要/実施目的.....	47
4.2 参加者について.....	48
4.3 当日プログラムの詳細.....	50
5. まとめ	56
5.1 ネットワーク構築の有効性の考察.....	56

1. 業務概要・実施方針

1.1 本事業の目的・背景

中部地域（愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県）は、世界的なものづくり産業の集積地であり、独自の歴史・文化に裏打ちされた卓越した技術が数多く存在している。しかし、訪日外国人観光客の動態においては、ゴールデンルート上の通過点として捉えられる傾向が強く、中部地域における外国人延べ宿泊者数は全国全体の約5%に留まっているのが現状である。来訪者の多くは主要都市間の移動に伴う「立ち寄り」が主体であり、地域での深い消費活動や滞在時間の延長、ひいては伝統産業の振興に資する観光需要の獲得が十分になされていない。

こうした背景から、本事業では中部地域への交流人口拡大、特に国内外の「モダンラグジュアリー層」をターゲットに定め、現地でしか味わえない価値を提供する「中部のホンモノ体験」の造成およびネットワーク構築の有効性を検証することを目的とした。

令和7年度 流通・サービス産業課NOVA

中部のホンモノ体験の造成、商品化、需要開拓を促進するためのネットワーク構築の有効性の検証事業

事業内容

- 当局では、中部地域への（主に国内外の富裕層の）交流人口拡大に向けて、現地に赴くことでしか体験できない特別なプログラムを通じて、触れた人の知的好奇心を刺激し、そこに流れる歴史・文化までも深く感じることができる新しい体験＝「**中部のホンモノ体験**」として定義し、このコンセプトに基づく地域内の取組をパッケージ化してPRを展開。
- 「中部のホンモノ体験」の地域全体での展開を進めるため、**個々のエリアでの取組の底上げやコンテンツの充実**とともに、更なる連携を進める以下の取組を推進。



- (1) **出会うの場と学びの場として職手継承2025を首都圏で開催**
ここで学びを得た伝統工芸事業者と、中部地域の伝統工芸の可能性を認知したホンモノ体験コーディネーター人材や観光関連事業者等が、今後連携して観光コンテンツを生み出す動きを後押しする場とする
【内容】 ①講演又はトークセッション
②実演・展示
- (2) **職手継承で中部地域に関心をもった富裕層向けのホテルのコンシェルジュやランドオペレーター等^(※1)やホンモノ体験コーディネーター人材^(※2)候補等を対象に、モニターツアーを実施**
【内容】 ①中部のホンモノ体験を1泊2日ほどで現地で実際に体験
②産地等の関係者へモニターツアー参加者からフィードバック
- (3) **アクセスポイントと地域間とのゆるやかなネットワーク形成の場やその仕組みを検討し、上記を通じたネットワークを構築**
【内容】 ①ネットワークを通じた持続可能な観光まちづくりによる地域活性化モデルの有効性の検証
②ネットワーク形成のため、対面での関係者が集まる場づくり

目指す方向性

- **新たな観光コンテンツ充実と受入体制の整備のための学びの機会と人材確保**
- **地域・産地等とアクセスポイントとの関係構築**

当地域に国内外の富裕層が訪れ、「ホンモノ」の体験を通じてエリアのファンを拡大

エリアに**新たな需要**と**さらなる交流人口の拡大**をもたらすという**好循環の、継続的かつ自立的な展開**

(※1)富裕層向けのホテルのコンシェルジュやランドオペレーター等：アクセスポイント

(※2)ホンモノ体験コーディネーター人材
多様なステークホルダーが存在する地域において、確く仕組みやアイデアを発想し、実現するために地域の関係者をつないで実践する持続可能な「輝ける観光まちづくり」を地域の中心に立って推進する人材。

1

1.2 「中部のホンモノ体験」の定義

本事業では、中部地域への交流人口拡大に向け、以下の3要素を兼ね備えたプログラムを「中部のホンモノ体験」として定義している。

1. **現地性**：現地に赴くことでしか体験できない特別なプログラムであること。
2. **知的充足**：触れた人の知的好奇心を刺激する内容であること。
3. **歴史・文化の深層**：単なる体験に留まらず、そこに流れる歴史や文化を深く感じ取れること。

これらコンセプトに基づく地域内の取組をパッケージ化し、一貫性のあるブランドとしてPRを展開することで、中部エリアのファン拡大を目指す。

1.3 観光コーディネート機関（人材）の必要性

地域の伝統産業を観光コンテンツとして提供する際、産地事業者単独では観光関連事業者との接点が乏しく、富裕層アクセスポイントへの直接的なアプローチが困難であるという課題がある。これを解消するため、地域の関係者をつなぎ、稼ぐ仕組みやアイデアを実現する「観光コーディネート機関（人材）」の介在が不可欠である。コーディネート機関が介在することで、旅行者窓口が把握しきれていない地域の潜在的なコンテンツを適切に選択・編集し、エリアの歴史に基づいた深いストーリー展開が可能となる。また、旅行者窓口との信頼関係を構築することで、個別のコンテンツ調整をスムーズに行い、エリア全体の機会損失を防ぐ役割を担う。

1.4 事業の全体構成

本事業は、以下の3つの施策を連動させることで、地域産業の維持・発展と地域活性化の好循環を創出する体制とした。

- (1) **職手継祭 2025（出会いと学び）**：事業者とコーディネート人材のマッチング。
 - ① 講演又はトークセッション
 - ② 実演・展示

※ここで学びを得た伝統工芸事業者と、中部地域の伝統工芸の可能性を認知したホンモノ体験、コーディネート人材や観光関連事業者等が、今後連携して観光コンテンツを生み出す動きを後押しする場とした

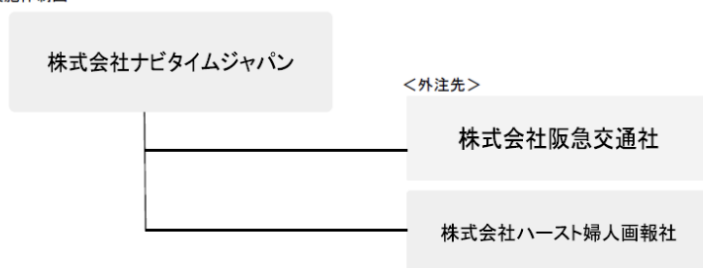
- **(2) モニターツアー（商品化と検証）**：アクセスポイントによる品質評価と商品化の促進。
 - ①中部のホンモノ体験を1泊2日で現地にて実際に体験
 - ②産地等の関係者へモニターツアー参加者からフィードバック

- **(3) ネットワーク形成（持続性）**：持続可能な観光まちづくりモデルの構築。
 - ①ネットワークを通じた持続可能な観光まちづくりによる地域活性化モデルの有効性の検証
 - ②ネットワーク形成のため、対面にて関係者が集まる場づくり

1.5 事業実施体制

事業者名	関係	業務の範囲
株式会社ナビタイムジャパン	—	・全体マネジメント/全体窓口 ・事業の取りまとめ
株式会社阪急交通社	外注先	・モニターツアー催行やネットワーク形成に必要な出張手配 ・地域関係者との調整業務 ・職手継祭開催支援
株式会社ハースト婦人画報社	外注先	・職手継祭におけるイベント企画 ・講演者等のキャスティング業務 ・事業全体のプロモーション

実施体制図



本事業は、官民連携による高付加価値観光の推進体制として、以下の3社による連携体制にて実施。

2. 案件A：職手継祭（してつさい）の実施管理業務

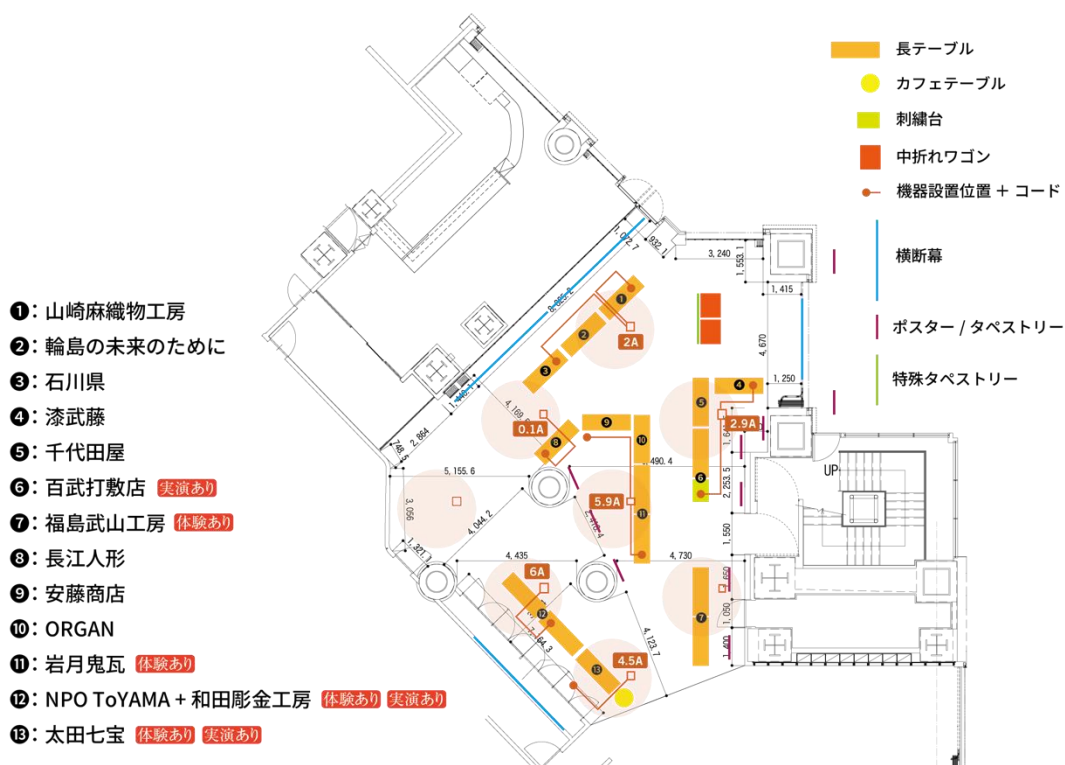
2.1 開催概要

中部地域の伝統工芸を観光コンテンツとして磨き上げるため、出会いと学びの場として「職手継祭 2025 in 東京～会いに行こう、中部に継がれたホンモノの手仕事－ワザ－～」を開催した。

- ・ 日時：2025年12月2日（火）10:00～19:00
- ・ 場所：KITTE 地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン
- ・ 対象者：中部の伝統工芸事業者、観光関連事業者等
- ・ 目的：産地へ足を運んでもらうためのネットワークづくり、および伝統工芸の魅力発信。

2.3 会場設計

13の事業者・団体が出展し、高岡銅器、九谷焼、岐阜和傘、三州鬼瓦などの展示・販売・実演・体験を実施。



2.4 当日プログラムの詳細

第1部：事業者向けセミナー（10:00～11:30）

観光・文化資源としての伝統工芸の活用について、専門的な知見を共有する場を提供しました。

セミナー① (10:05-10:35)

<p>タイトル</p>	<p>観光・文化資源としての伝統工芸の可能性</p>
<p>講師</p>	<div data-bbox="416 353 616 658" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="635 443 1198 573" data-label="Text"> <p>株式会社 JTB グローバルアシスタンス ラグジュアリーマーケット推進ディレクター 大倉 恭子 氏</p> </div> <div data-bbox="424 678 1350 853" data-label="Text"> <p>日本交通公社（現：JTB）入社以来、各種アウトバウンド・インバウンド事業を担当。2021年からJGAにおいて、ラグジュアリーマーケット戦略担当として、世界の富裕層向け旅行専門家との継続的な情報交換を通じ、高付加価値サービスの開発に従事。</p> </div>
<p>講演概要</p>	<p>現代の旅行者には、クラシックラグジュアリーが持つ「タイムレスな価値」を求める層と、文化理解・没入・精神性を重視するモダンラグジュアリー層が併存しており、近年ではその両者を組み合わせた“ハイブリッド型”も広がっている。こうした多様な価値観と照らし合わせると、伝統工芸はどの層とも親和性が高く、特定の層を一義的にターゲットとするのではなく、ストーリー・哲学・交流・五感設計など「7つの基準」をどう組み合わせ、どのように伝え・見せ・体験を通じて理解してもらうかが鍵となる。国内外の事例を踏まえると、この“伝え方・見せ方・体験と交流の設計”こそが、クラシックの価値（歴史・格式・技・美）とモダンの価値（没入・本物性・精神性）を自然に融合させ、訪問者に深い理解と共感を生む基盤となる。産業を残し、繋いでいくためには、譲ってはいけない伝統について凜とした軸を持ちつつ、時代の変化に対応して、少しずつ変える勇気と覚悟を持つことが必要である。</p>
<p>会場写真</p>	<div data-bbox="424 1621 930 1962" data-label="Image"> </div>

セミナー② (10:35-11:05)

<p>タイトル</p>	<p>リジェネラティブ（再生）ツーリズム～観光で地域の文化資源を未来へつなげるか？</p>
<p>講師</p>	<div data-bbox="411 421 703 663" data-label="Image"> </div> <p>有限会社エピファニーワークス 代表取締役／一般社団法人富山県西部観光社 水と匠 プロデューサー 林口 砂里 氏</p> <p>2005年にエピファニーワークスを立ち上げ、アート、デザイン、音楽、科学等幅広い分野を繋げるプロジェクトの企画・プロデュースを手がける。2012年より拠点を富山県高岡市に移し、産業観光ツアーの企画や宿泊施設の運営など、観光を通じた地域づくりに取り組んでいる。</p>
<p>講演概要</p>	<p>地域の自然や精神風土、伝統文化やお祭り、ものづくり、郷土料理などを、観光を通じて紹介することで、富山の「土徳」を伝えることをミッションに活動。観光を手段として、モダンラグジュアリー層をターゲットに新しい価値観を提供することで対価を得て、それを地域資源の保全と再生へ還元することを目指す。このために、伝統のものづくり、食、自然、精神風土、民藝など富山県ならではの観光資源を体験できるオリジナルコンテンツの開発、空き家を再生した宿の運営、地域資源を使った商品開発なども手がける。本業とのバランス、歴史・背景・想いの伝達、価値に共感するファンの獲得、販売環境の整備、真の付加価値（唯一無二の体験）の提供が、伝統産業・工芸の未来に資する産業観光のポイント。このことが、収益の確保や長期的な応援につながる。</p>
<p>会場写真</p>	<div data-bbox="422 1617 997 1982" data-label="Image"> </div>

ブースツアー（11:05-12:00,13:00-14:00 合計2回）

旅行関連事業者等を対象に、13の出展ブースを巡るブースツアーを実施。各ブースでは、事業者がそれぞれの伝統工芸品の歴史的背景や工芸品の特徴、事業者の取組等を説明し、参加者の皆様は熱心に聞き入っていた。ツアー後は個別にブースを回り交流を深めた。株式会社阪急交通公社には、旅行関連事業者に対してブースツアー参加について協力いただいた。



第2部：一般・関係者向け展示・実演・トークセッション（11:30～19:00）

一般展示・実演・体験

中部地域の12の伝統工芸事業者が、職人たちの技術が詰まった逸品を展示し、来訪者と対話をしながら、その魅力を発信。一部事業者の実演・体験も行われた。また、共催者である石川県による能登復興応援ブースでは、復興に向けた歩みを紹介した。



会場の様子



大型スクリーンでの能登の復興の歩み動画の上映



尾張

七宝製作体験



日本

刺繍実演

トークセッション① (16:00-16:30)

<p>タイトル</p>	<p>momiji と拓く伝統工芸の未来</p>
<p>登壇者</p>	<div data-bbox="411 394 639 696" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="655 483 1203 566" data-label="Text"> <p>俳優／momiji クリエイティブディレクター 松山 ケンイチ 氏</p> </div> <div data-bbox="421 714 1399 891" data-label="Text"> <p>2022年、十分に活用されてこなかった獣皮などの貴重な「資源」をアップサイクルするライフスタイルブランド「momiji」を始動。日本の伝統工芸とのコラボレーションを通じ、自然と人の営みをつなぐものづくりに取り組み、日本文化の魅力を SNS 等でも発信している。</p> </div>
<p>講演概要</p>	<p>地元青森での伝統工芸との出会いから、「momiji」における様々な伝統工芸とのコラボレーションの取り組みを紹介。その過程で実際に現地を訪れ、職人たちと交流を深めたからこそ感じられた情熱や魅力を熱く語った。また、研ぎ澄まされた職人の技に対する適正な対価についても言及し、伝統工芸の未来へ向けて課題を提起した。</p>

トークセッション② (17:00-17:45)

<p>タイトル</p>	<p>成長産業としての伝統工芸</p>
<p>登壇者</p>	<div data-bbox="416 394 614 696" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="635 483 1390 562">株式会社 t.c.k.w 代表取締役／伝統技術ディレクター 立川裕大 氏</p> <p data-bbox="424 719 1331 931">オーダーメイドの伝統工芸プロジェクト ubushina を立ち上げ、日本の伝統技術を先鋭的なインテリアに仕立てるスタイルを確立。日本各地の職人と長年にわたって切磋琢磨しながらものづくりの現場を共にし、日本の技の粋を集めたプロダクトブランド AMUAMI をリリース。地域社会や環境と調和しながら、日本の職人の仕事を世界に届けている。</p>
<p>講演概要</p>	<p data-bbox="424 992 1390 1447">日本の伝統産業の多様性と技術力の高さに魅せられ、デザインの世界から職人文化の継承と発展に尽くす道へと踏み入れた経緯や、職人との協業により伝統技術を最先端のインテリアに昇華させてきた自身の取り組みを紹介。あわせて、伝統工芸もアップデートし続けなければ滅びるという危機感や、職人の労働生産性の低さなどの問題を提起した。そうした状況下でも伝統工芸は成長産業になり得ると主張し、労働生産性の高い製品開発、職人でもデザイナーでもないプロデュースを担う「カルチャープレナー」の育成、つくり手目線だけでなく使い手目線で世界観を伝え直すことの重要性を指摘。これにより、日本独自のラグジュアリーブランドを官民一体で構築していく必要性を説いた。</p>
<p>会場写真</p>	<div data-bbox="424 1525 1219 1973" data-label="Image"> </div>

一般来場者およびアクセスポイントに対し、中部の伝統工芸の魅力を発信するとともに、現地を訪れたいという機運を醸成しました。

2.5 当日プログラムの実施結果

【定量的アウトプット】

- 出展事業者：12 者＋復興応援ブース
- セミナー参加者：46 名
- 一般来場者数：約 1,000 名（主催者調べ）
- ブースツアー参加者：15 名
- トークセッション参加者：延べ 44 名

【出展事業者の声（アンケートより抜粋）】

①高付加価値化への意識変容

- モダンラグジュアリーや観光資源などの言葉を言語化して事例を基に聞いたことが大変良い学びとなった。
- インバウンドの需要をいかに工芸と繋げるか考えることができた。

②販路開拓とネットワーク形成

- 観光関連事業者や前向きな方と出会うきっかけとなった。観光関係のバイヤーとのつながりを持って、貴重な機会となった。
- 一般の方、ツーリズム関係、デザイナー他様々な方と交流が持てた。
- 東京開催で多くの方に知ってもらい、繋がりができたことが大きな一歩となった。

③フィードバック機会についての要望

- 当方の考える体験方法を実際に体験していただき、フィードバックをもらい、適正な形にしたい。
- ぜひ相談会などを行っていただきたい

- 自宅兼工房なので、どこまで観光向けにスペースなどを確保すればいいのか不安であるため専門方に相談できればと思う。

【まとめ】

本事業では、伝統的工芸品事業者が通常接点を持ちにくいラグジュアリーマーケットの専門家を招聘し、実践的かつ具体性の高い「学びと交流の場」を創出することができた。加えて、先進的な取組を行う事業者の事例共有により、参加者の高付加価値化やインバウンド対応への意識変容を促す機会となった。

また、共通の課題意識を持つ伝統産業事業者同士の横断的なネットワーク形成にもつながり、産地を越えた交流・情報交換の契機を生み出した。経済産業省としても、意欲的な事業者の掘り起こしおよび今後の支援対象の可視化につながる機会となった点は大きな成果である。

一方で、参加事業者からは、より実務的なフィードバックや個別相談の機会を求める声も挙がった。地方工房への個別訪問は物理的・コスト的制約があることから、都市部などアクセス性の高い会場において、事業者が体験コンテンツやプレゼンテーションを実施し、専門家から具体的助言を受けられる仕組みを設けることが、今後の発展的展開として有効であると考えられる。

3. 案件B：モニターツアーの実施管理業務

3.1 開催概要/実施目的

「中部のホンモノ体験」コンテンツを実際の旅行商品へと繋げるため、アクセスポイントとなる事業者を招聘し、「中部のホンモノ体験」の旅行者への提案促進を目的に、旅行商品の企画・開発・地域の魅力を最大限に引き出すユニークなツアーや体験プログラム・具体的なサービスとして、事業者と招聘者のマッチングの機会とする。

まだ知られていないコンテンツを実際に体感してもらうことで、富裕層向けの特別感のある新たな旅行商品の造成につなげてもらうことを目的とした。

- 日程：2026年1月19日（月）20（火）（1泊2日）
- 訪問エリア：石川県金沢市／能登半島等
- 訪問先（事業者）：これから旅行者を受け入れたい産地事業者
- 招聘者：ラグジュアリーマーケットを専門とするDMC（※）等

※DMC（Destination Management Company）

旅行業免許があり、特定の目的地に関する深い知識を持ち、富裕層顧客一人ひとりの要望に合わせてオーダーメイドの旅行を企画・実行する「旅のデザイナー」。単なる旅行手配業者とは一線を画し、地域の文化や魅力を最大限に引き出すプロフェッショナル。

No.	招聘者
01	 <p>株式会社JTB グローバルアシスタンス ラグジュアリーマーケット推進ディレクター 大倉 恭子 氏</p> <p>世界最大規模のラグジュアリートラベル商談会への継続的な参加を通じて豊富な知見とネットワークを構築。完全紹介制の世界的なラグジュアリートラベルネットワーク VIRTUOSO への加盟や、マリオット・インターナショナルの世界会議において日本の代表として Celestial Club Winner を受賞するなど、国内外における確固たる実績と繋がりを強みとしている。</p>
02	 <p>株式会社 TOKYO LUXEY 代表取締役 前田 知映 氏</p> <p>究極のラグジュアリー = 本物のエクスペリエンスを切り口に、海外の本物を求める旅行者に向けた、トラベルデザインを手掛ける。近年は、文化観光を推進すべく、国内の職人・匠・アーティスト・建築家・デザイナー・シェフ等の道を極める方々のエクスペリエンス（コンテンツ）をフックとした、新たな産業としてのラグジュアリートラベルを提唱。</p>

03		<p>ホテル日航金沢チーフコンシェルジュ 小島 久枝 氏</p> <p>2024年レ・クレドールプレジデント「レ・クレドール」は、1929年10月26日、フランスにて発足されたホテルのコンシェルジュのネットワーク組織。国際的ネットワークとして成長し、現在は、80ヶ国以上の530都市に約4,000名の会員（2018年4月現在）によって構成され、年一度の国際大会のほか、様々な会合を世界各地で開催し、会員同士のネットワーク構築とコンシェルジュのための勉強プログラムを実施。</p>
04		<p>株式会社阪急交通社 欧州市場 訪日誘客担当 インバウンド実務主任者 魚地 啓吾 氏</p> <p>1986年株式会社阪急交通社入社以来、一貫して国際旅行業務に従事。その後、同社国際旅行課にて欧州市場のMICE（ビジネスイベント・展示会）や東南アジア・東アジア全域の市場開拓を牽引し、2017年には国際営業部長として欧米豪市場の営業統括責任者に就任。2021年より地域振興部にて訪日誘客の責任者を務め、現在は一般社団法人地域未来企画のインバウンドディレクターを兼務。総合旅行業務取扱管理者のほか、温泉ソムリエや食品衛生責任者の資格も有し、食・宿・体験を統合した多角的な地域振興を推進している。</p>

3.2 モニターツアー行程

2026年1月19日～20日の1泊2日で、石川県（金沢市・能登エリア等）を訪問した。

- 1日目： 輪島エリア
日本を代表する伝統工芸である「輪島塗」の産業基盤の維持と継承を支援す

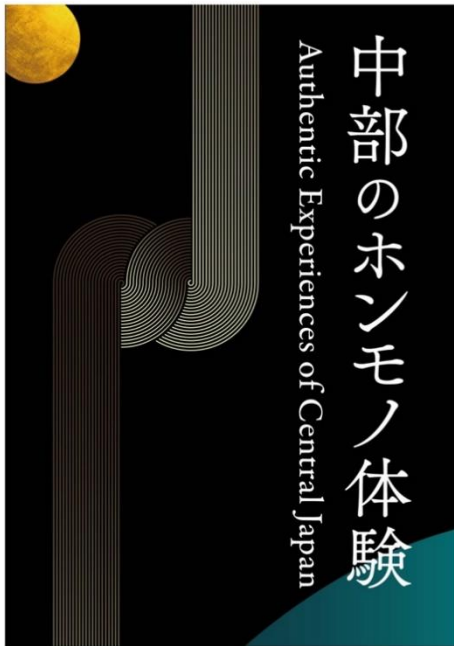
ることを主眼に、本行程を選定した。インバウンド市場、特にモダンラグジュアリー層からは、令和6年能登半島地震を経た被災地の現状への関心に加え、その地で育まれてきた伝統文化やものづくりを応援したいという意識が高まっている。一方で、受け入れ環境には不透明な部分も残ることから、本行程を通じて輪島の現状を正しく共有し、今後の観光・産業支援の可能性を探ることも目的とした。

- **2日目：金沢・白山エリア**

輪島での「器（漆）」の体験に対し、対比的なテーマとして「繊維産業（染織）」に焦点を当てた。金沢およびその周辺エリアを輪島とセットで巡る広域ルートを提示することで、滞在日数の延長と、旅程としての重層的な完成度を検証することが目的である。

3.3 モニターツアーストーリーブック

各エリアの風土・歴史に基づいた深いストーリーを理解していただくために、本モニターツアーを実施前に「ストーリーブック」を召喚者に配布した。



ホンモノに出会う石川の旅

《ストーリーブック》

2026年1月19日(月)～20日(火)

古代と現代の高度な技術の融合～輪島塗～



輪島塗

漆器の原料となるウルシの原産地は中国ヒマラヤ山脈付近とされていますが、日本国内では縄文時代前期(1万年以上前)の遺跡からウルシの木片が出土しており、古くから日本列島にウルシが伝わり、そこから精製された漆が元々は土器等の接着剤として、さらに約9,000年前には装飾品として利用されていたことがわかっています。また、漆器の蓋に使われた麻葉文書に漆が染み込み、結果的に廃棄するはずの文書が「漆紙文書」として古代の遺跡から多く出土していることから、漆が堅牢性・耐久性に優れていることがわかります。

漆を表面に塗布した漆器が日本各地で製造される中、輪島塗(わじまじり)は最も有名な漆器の一つですが、その起源は不明です。しかし、輪島市に隣接する七尾市の遺跡から出土した漆器(部)は、およそ7,000年前のものとの分析結果が出ており、輪島市の漆りではその漆すでに漆器が製造されていたことがわかります。現在では「漆の孤島」とも言われる輪島を中心とする奥能登地域ですが、古くは日本海沿いの大津や日本各地と繋がった「先遣地域」だったのです。



縄文時代の漆塗りの部

現在の輪島塗の大きな特徴として、専門化した職人による分業制が挙げられます。100以上にも及ぶ製造工程をそれぞれ専門の職人が担い、高度な職人の技術が重なることで、優美繊細かつ堅牢な輪島塗が完成するので、輪島塗のそれぞれの工程の技と歴史を、製造道具や映像でわかりやすく知ることができ、石川県漆芸美術館です。ここでは、令和4(2022)年に制作され、大津・関西万博でも展示された「夜の地球 Earth at Night」もご覧いただけます。輪島塗の伝統的な技術が高度に凝縮し、漆による吸い込まれそうな深い黒と、髹絵や沈金によるきらびやかな金の輝きにより、宇宙に浮かぶ幻想的で美しい地球の夜を表現したこの作品をご覧いただければ、「One World, One Planet」を強く感じることができそうです。



▲「夜の地球」
大津・関西万博パビリオン▼



分業を支える輪島塗のワザ

漆器製造のベースとなるのが「木地」です。木地は「水地師(きじ)」と呼ばれる専門の職人たちによって作られています。大きく分けて木地には、椀木地、朴木地(別物木地)、指物木地、曲物木地の4種類がありますが、それぞれに適した木材を削り、曲げ、磨くことで輪島塗の基礎ができあがります。表面に漆が塗られて、木目の風合いが失われてしまうことを嫌み、四十次木材工芸では、木地そのものの良さを活かすため、四十次木材工芸では、木地そのものの良さを活かすため、四十次木材工芸も手がけています。



四十次木材工芸の木地(木目)

磨き上げられた木地の上に何層にも塗り重ねられます。輪島塗の塗り技法の伝承は継続ありますが、和歌山県の漆師の技術が元になっているとされています。1987年には輪島市の中心に位置する重蔵神社の半殿内陣の扉に塗りが施されており、これが「最古の輪島塗」とされています。

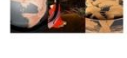


「最古の輪島塗」
(重蔵神社内陣の扉)

輪島塗の大きな特色は、下地に地の粉(珪藻土)が用いられていることです。木地に布着せ、下地塗り、研ぎ、中塗りといった工程を重ね、仕上げ(上塗り)が施されます。この下地塗りの際に地の粉を漆の刷液に混ぜ込むことで、輪島塗特有の丈夫な漆器となるのです。



▲沈金
髹絵▼



18世紀初めには、漆器の表面をノミで彫り、その溝に漆を塗り込んで金や銀の金属粉を埋め込む「沈金」が開発され、19世紀初めには会津から「髹絵」が伝わりました。これらの加飾の技法が導入されたことで、それまでの朱や黒一色だった輪島塗が洗練された漆器として認知され、販路を拡大していくことになりました。その販路拡大に大きな役割を担ったのが、「塗師屋(ぬしや)」です。

塗師屋は客先の要望に応じた商品を企画し、現在500以上いると言われる輪島塗の職人の中から、その商品の製作に当たることのできる職人を選抜して、商品仕上げる輪島塗のプロデューサーです。塗師屋自身も職人を含め、自社の工房でも商品の製作を行っています。数ある塗師屋の一つである安政5(1846)年創業の輪島塗しおや漆器工房では、職人たちの技を身近で見ることができるとともに、職人との対話が可能です。

輪島塗はあくまでも「器」です。普段の生活の中で使用こそ、その良さを実感することができます。こうしたコンセプトの元、輪島塗の塗師である株式会社田谷漆器店は、金沢市内で石川県の工芸品を扱うギャラリー「KRAFEAT」を運営し、その飲食店で実際に輪島塗を食器として「使う体験」を提供しています。伝統工芸に新たな価値を提案するその取組は、国内外で注目されています。

訪問先（輪島市内）

<p>石川県漆芸美術館（いしかわけんしつげいびじゅつかん）</p> <p>928-0883 石川県輪島市永守町四十番地 11 番地 TEL 0768-22-9788 https://www.art.city.wajima.ishikawa.jp/</p>	
<p>四十沢木材工芸（あひだわくまうこうげい）</p> <p>928-0852 石川県輪島市塚町3-8-1 TEL 0768-23-4077 https://www.aizawa-wood.jp/</p>	
<p>輪島塗しおやず漆器工房（わじまぬりしおやずしこうぼう）</p> <p>928-0032 石川県輪島市小伊勢町日隔2 0 TEL 0768-22-1166 https://shioyasshikkikoubou.com/</p>	
<p>株式会社田谷漆器店（たやしきりょうてん）</p> <p>928-0011 石川県輪島市杉町5-5-6 TEL 080-2376-5822 https://www.wajimannari.co.jp/</p>	
<p>CRAFEAT（くらふいーど）</p> <p>920-0988 石川県金沢市水舎町5-2 TEL 090-4749-4177 https://www.crafeat.com/</p>	

なります。また、蘭系の組み合った部分が独特の風合いを生み出しています。

江戸時代後期（18世紀）には全国に広く販売されたと言われている牛首袖ですが、昭和10（1935）年前後に生産のピークを迎えたものの、折からの経済不況と競争への突入により、その販路が急速に縮小、本格的な生産は途絶えてしまいました。しかし、昭和38（1963）年、台場の地場産業の振興を志した西山鉄之助が最知の造産を勧め、養蚕を開始。そしてその翌年には袖工場を建設し、牛首袖を再開。昭和63（1988）年には国の伝統的工芸品の指定を受けました。現在は、西山産業開発株式会社がその生産技術を伝承し、平成21（2009）年以降海外展示会への参加を進め、世界のファッション業界から大きく評価されています。



西山産業開発がPMI ZENと手がける商品

石川県では、能登上布や牛首袖をはじめとした繊維産業が古くから盛んでした。近代にはこうした歴史・風土に根ざした紡績機械や織機といった機械産業が発展するとともに、化学繊維や合成繊維、近年では炭素複合繊維といった新たな素材産業にも挑戦する企業も生まれ、石川県では多くの繊維関連のニッチトップ企業や先端技術を有した企業が育っています。これらの中には、カジグループの「KAJI FACTORY PARK」のように工場を整備し、一般公開している企業もあります。



KAJI FACTORY PARK 外観

古代から現代へ、繊維・織物の歴史をここ繊維王国・石川で体感することができます。

繊維王国・石川の伝統～能登上布と牛首袖～

水綿が1500年代の終わり頃に日本に伝わり繊維物が普及するまで、麻織物や絹織物が原料の中心でした。北陸地域、特に現在の石川県では、その気候を活かして麻織物の原料である麻、絹織物の原料である葦系（藁）の生産が盛んであったことから、麻織物の能登上布（のどじょうふ）や絹織物の牛首袖（うしくびつむぎ）といった地域の特性を活かした織物が発展しました。



▲能登上布

麻織物は水綿が普及する前まで、庶民の衣類の原料として広く使われていました。北陸地域では原料となる上質な葦や葎が収穫され、能登上布のほかにも小千谷縮（おじやちろみ、新潟県）や福光麻布（ふくみつあさふ、富山県）といった麻織物が古くから知られています。



▼牛首袖

その中でも能登上布は、今からおよそ2000年前に崇神天皇の皇女が現在の中能登町中能登郡下に滞在した際、この地に織機を教えたのが始まりとの伝説があるほど歴史がある麻織物です。1800年代の初めには近江国（現在の滋賀県）から新たな技術を導入して、現在の石川県中能登町・羽咋町を中心に発展を遂げ、明治初期（1870年頃）には麻織物の生産国一を誇りました。能登上布の特徴はその発展の中で開発された様々な柄柄で、昭和35（1960）年には石川県無形文化財の指定を受けています。



山崎麻織物工房の様子

しかし、その後、麻織物の需要減少等の影響を受けて生産者が減少し、現在は能登上布の継承者としては株式会社山崎麻織物工房を残すのみとなっています。同社では能登上布の織布の工程を公開してその普及を図り、後継者の育成に努めるとともに、伝統的な中にも斬新な能登上布の新たな可能性を追求しています。

冬が深い北陸地域では、冬の収入源として養蚕が盛んでした。そこで生産された葦系（藁）を用いた絹織物が日本各地で発展しましたが、その中でも牛首袖は、鹿角島産の大島紬、茨城県・栃木県の縮絨と並び、日本三大紬として称されるほど上質な絹織物として知られています。



玉置の縮糸（くりいと）の様子

牛首袖の名前は、石川県白山市・台峰の田名（牛首村）に由来しています。伝承によれば、平治の乱（1159年）で敗れ、牛首に流れてきた源氏の落人の妻が織機の技を伝授したのがその始まりとされています。牛首袖の原料は、2匹の蚕が作った「玉置」です。蚕の繭のうち3割程度発生し、本来は直織として廃棄される玉置から、職人の熟練の技によって直接糸を挽き出すことで糸に弾力が生まれ、「釘技袖（くづぬきつむぎ）」の別名をもつほどの丈夫さを兼ね備えた織物と

花開く武家文化～多様な伝統的工芸品、そして加賀友禅～



▲前田家の居城 金沢城
長町歴史館敷設跡



（かがまきえ）（金沢漆器（かなざわしき））、この地で盛んだった仏教の道具である打敷（うちしき）や蓑袋（けさ）に起源を持つ加賀縮（かがぬい）など、金沢近郊には加賀・前田家により保護・振興され、当時の文化の先進地であった江戸や京都とも違う独自の進化を遂げた工芸品が多数存在し、その伝統の技を今に伝えています。

江戸時代（1603年～1867年）、この地を治めたのは加賀・前田家でした。前田家の領地は現在の石川県から富山県に及び、日本国内でも徳川将軍家に次いで「加賀百万石」とも称される米の生産量（＝経済力）を誇りました。しかしその豊富な財力から、常に将軍家から政敵として見なされる恐れがありました。そこで、前田家では領内の文化・芸術の振興といった非軍事的な分野への投資を積極的に行うことで無用な疑念を避け、それが結果的にこの地域に絢爛な武家文化をもたらすことになりました。



▲九谷焼

17世紀前半、当時の陶磁器の先進地である有田（現在の佐賀県）の技術を導入した九谷焼（たにやき）、1630年頃に京都から作家を招いて始められた加賀蒔絵（かがまきえ）（金沢漆器（かなざわしき））、この地で盛んだった仏教の道具である打敷（うちしき）や蓑袋（けさ）に起源を持つ加賀縮（かがぬい）など、金沢近郊には加賀・前田家により保護・振興され、当時の文化の先進地であった江戸や京都とも違う独自の進化を遂げた工芸品が多数存在し、その伝統の技を今に伝えています。



▲加賀縮

中でも、この地域の特産である絹織物と、地域独自の染色技術である「お国染」、そして18世紀の初めにこの地に招かれた宮崎友禅斎のデザイン技法とが結びついて生まれたのが加賀友禅（かがゆうぜん）です。



▲加賀友禅

加賀友禅は、図案柄を中心とする京友禅に対し、花鳥風月を中心に多色で濃い色調と三色ばかり、アクセントとして虫喰いなどの表現が施され、独自の雰囲気を出していることが特徴です。様々な技法の中でも、ボカシの技法は、京友禅が内側から外側にぼかすのに対し、加賀友禅は外から内へぼかすことで、優美な趣を有しています。

京友禅では、図案師、染師など各工程の専門の職人が分業で1枚の着物を仕上げますが、多くの加賀友禅の工房は、個々の工房で一貫して製作が行われていることも特徴です。伝統的なデザインから加賀友禅の技法を活かした新たなアイテムを次々と手がける専ら染織工房でも、図案作成から仕上げまでの約15の製作工程を見学、体験することができます。

訪問先（加賀・金沢）	
株式会社山崎麻織物工房（やまざきあざおりのものこうぼう） 925-0071 石川県羽咋市下宮袴町ヲ84番地 TEL 0767-26-0240 https://aotojofu.com/	
西山産業開発株式会社（にしやまさんぎょうかいほつ） 920-2167 石川県白山市御入道町ト40 TEL 076-273-2400 https://ashikubi.co.jp/	
每田染画工芸（まいだせんがこうげい） 920-0804 石川県金沢市本多町3丁目9-19 TEL 076-221-3365 http://www.asida-yuzen.com/	

3.4 行程の詳細

日時	行程
1日目 1/19 (月)	羽田空港—【NH747】—能登空港＝漆芸美術館（輪島塗の制作行程や歴史について解説）＝ 8:55/9:55 集合10:30 11:00/12:00
	寿司処 伸福(昼食)＝四十沢木材工芸 Factory's Gallery (漆器用素地の木地加工の説明と工場見学)＝ 12:05/13:00 13:15/14:15
	輪島塗しおやす漆器工房(輪島塗の塗師職人の説明と工房見学)＝ 14:30/15:10
	CRAFEAT【クラフェイト】(輪島塗の食器を使用した夕食)＝ホテル日航金沢 18:00/20:00 20:30
宿泊:ホテル日航金沢	
2日目 1/20 (火)	ホテル日航金沢＝山崎麻織物工房(能登上布の説明と工房見学)＝穂濤 離れ(昼食)＝ 8:00 9:30/10:30 12:00/13:00
	牛首袖×MIZEN白山店<加賀乃織座>(牛首袖の説明と工房見学、体験)＝ 13:40/14:40
	加賀友禅毎田染画工芸(加賀友禅の説明と工房見学)＝金沢駅—【かがやき514号】—東京駅 15:30/16:30 17:00/17:57 20:23

(1) 1日目：輪島エリア（輪島塗の工程理解と「使う」価値の再発見）

1日目は、輪島塗の複雑な分業制と製作工程を論理的に理解し、最終的にその価値を五感で享受する行程とした。

企画意図と視察行程：

①石川県立輪島漆芸美術館（解像度の向上）：最初に美術館を訪問し、輪島塗の124工程に及ぶ緻密な作業や歴史、漆の特性について学芸員の解説を受けた。個別の工房を訪問する前に「輪島塗」に対する知識の解像度を最大化させることで、その後の職人との対話における理解度と質疑の質を飛躍的に高めることを狙いとした。

②四十沢木材工芸（工程の源流：木地）：美術館で得た知識を元に、まずは輪島塗の土台を支える「木地」の現場を視察した。膨大な木型を保有する木地屋の視察を通じ、器の「形」が決まる最初のステップを確認することで、分業制の合理性と奥深さを提示した。

③輪島塗しおやす漆器工房（中核工程：塗師）：土台が完成した後の「塗り」と「販売」を担う塗師屋（ぬしや）を訪問。木地から製品へと至る一連の仕事の流れを視認した。

④CRAFEAT（活用と購買への動機付け）：1日の締めくくりとして、輪島塗の器で提供される料理を実食した。「工芸は使ってこそ良さがわかる」というコンセプトの元、手に持った時の温度、口当たりの良さを体験。日中の視察で学んだ製作背景が「使い心地」という価値に変わる瞬間を演出し、将来的な高額商品の購入へと繋げる導線を検証した。

丸一観光 マイクロバス 8人乗り ラグジュアリータイプ



訪問先①石川県立輪島漆芸美術館



沈金(ちんきん)箸 色付体験

昼食：寿司処 伸福



※当初より商品化を前提とした視察先ではなく、ツアー当日の昼食休憩として利用した施設。一方で、招聘者の体験評価が高い場合には、将来的に旅行商品へ組み込まれる可能性もある。

訪問先②四十沢木材工芸



訪問先③輪島塗しおやす漆器工房



訪問先④CRAFEAT



(2) 2日目：金沢・白山エリア（「繊維産業」の産地見学から見えてくる生存戦略）

2日目は、着物に関連する三つの産地を巡った。各社を訪問し、その手仕事の現場を丹念に視察していく過程で、着物離れが進む現代において各々が導き出した独自の「生存戦略」が自ずと浮かび上がる構成となった。

① **山崎麻織物工房（能登上布）**：石川県指定無形文化財である能登上布の工房を訪問。織りの精緻な技術を見学し、作り手からの説明を受ける中で、布の風合いや色合いなどが、その地の歴史・風土から生み出されたものであることを実感した。また、かつての献上物を現代の「普段着」としての洋服へ展開している点を確認し、伝統を日常に取り入れる生存戦略を見出した。

② **牛首紬（うしくびつむぎ）×MIZEN 白山店**：白山麓で伝承される「釘抜紬」とも称される強靱な絹織物、牛首紬の工房を視察。希少な繭から糸を紡ぎ出す工程を体験し、地域の自然風土が育んだ「布」の文化背景を深掘りした。現場を視察する中で、パリ・コレクションに採用されたり、国際的な生地の見本市であるブルミエール・ビジョンへの出品をきっかけに出会ったデザイナーと協業したり、洋装分野でも世界のラグジュアリー市場と対等に渡り合う生存戦略を認識するに至った。

③ **加賀友禅毎田染画工芸**：金沢城下で育まれた武家文化の象徴として、加賀友禅の色彩美を確認。緻密な彩色のワザを見学する中で、身に纏うものとしての制約を超え、空間を彩る「アート作品（飾る布）」として新たな価値を創造している生存戦略が明らかとなった。江戸時代から続く前田家の文化投資が、現代では「鑑賞に堪える芸術」へと進化を遂げ、高付加価値化を実現している背景を深掘りした。

訪問先①山崎麻織物工房(能登上布)



穂濤(瀬音／くずきり付)



※当初より商品化を前提とした視察先ではなく、ツアー当日の昼食休憩として利用した施設。一方で、招聘者の体験評価が高い場合には、将来的に旅行商品へ組み込まれる可能性もある。

訪問先②牛首紬(うしくびつむぎ) × MIZEN 白山店



訪問先③加賀友禅毎田染画工芸



3.5 アンケート集計

【総括】

今回のモニターツアーは、実質4名の参加者（回答数5件）という小規模なサンプルながら、全体満足度100%という極めて高い評価を得た。ラグジュアリーマーケットの専門家から「事前の期待をはるかに超える内容の濃さ」との声が上がっている。中部の伝統工芸を「中部のホンモノ体験」として本格的に事業化・商品化するにあたり、注力すべき重要事項は以下の3点に集約される。

1. 「知的理解」と「実体験」を連動させた行程設計

美術館等で工芸の歴史や124に及ぶ緻密な工程を事前に学び、知識の解像度を高めてから工房を訪れるという構成が、コンテンツへの深い理解と共感を生んだ。さらに、学んだ直後にその器で食事を味わうといった「五感での体験」を組み込むことが、工芸品の真の価値を納得させ、高額商品の購買意欲を喚起する鍵となる。

2. 「職人の物語（ストーリー）」を伝える演出力の強化

単なる作業見学に留まらず、作り手との直接的な対話や、職人本人の指導による希少性の高い制作体験を、プレミアムなサービスとして確立することが不可欠である。

3. 商品化の障壁となる「受入インフラ」の整備

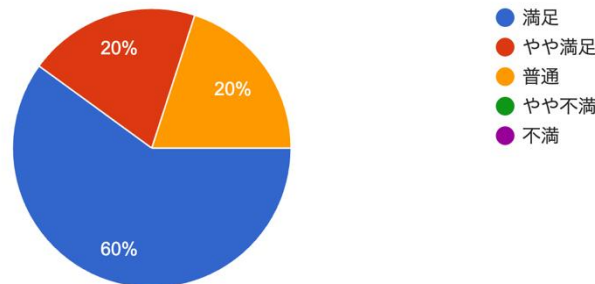
コンテンツ自体の質は極めて高いが、多言語による解説表記や、文化背景を正しく伝えられる「ストーリーテラー（通訳ガイド）」の不足が、商品化における致命的な課題として指摘された。また、ラグジュアリー層のライフスタイルに適した宿泊施設の確保や、椅子席への対応など、周辺環境の底上げ地域全体で進める必要がある。

【参加者アンケート】

※参加者数は4名であるが、同一人物による重複回答(2回)があるため、回答数は合計5件

漆芸美術館の見学・学芸員による解説についてはいかがでしたか？

5件の回答

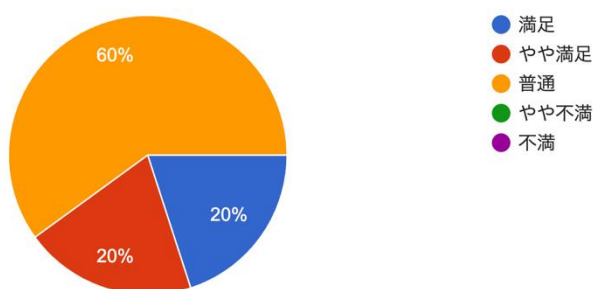


回答 ID	漆芸美術館の見学・学芸員による解説についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	専門的な内容を、初心者にも理解しやすいストーリー性をもって説明していただき、技法・歴史の両面で深い学びが得られました。特に、徒弟制度で学んだ世代と現代の教育システムの違い、椀講(わんこう)という“月賦(ローン)販売”に類似する伝統的仕組みなど、幅広い知識に裏打ちされた解説は圧巻でした。また、戦時中に軍需関連の製作を請け負うことで職人の徴用を避け、地域の技を守ったというお話にも深い感銘を受けました。訪日客に伝える際は、今回の学芸員の方のように、ストーリーをもって発信できる通訳者の存在が鍵になると感じました。
2	満足	実際に現場を視察する前にまず輪島塗り全体の概要を学ぶというスタートは後々じわじわとその効果が表れるので、とてもいいタイミングの設定だと感心させられました。地球儀展示室にあった東京の夜景に最も感動させられました。
3	満足	展示の仕方に加え、学芸員の方の説明が大変分かり易く、また展示品も見応えのあるものでした。折角の素晴らしい説明ゆえ、確実にインバンドゲストに伝わるよう、主な言語の音声ガイド(今回ご説明頂いた内容)の貸出があれば、より理解が深まり、魅力アップに繋がると思われます。沈金体験はシンプルに実施できて楽しく、また作品をその場で持ち帰られることもゲストがお喜びになるポイントかと思えます。
4-1(同一人物・重複回答① /1月20日)	やや満足	英語での解説ではないので判断つかず。日本語での解説は良いと思う。ただ、本気でインバウンドをやるのであれば、美術館内の英語表記をきちんとすることが必須。(現時点ではほとんど英語の解説表記が無い模様)きちんと説明できる英語ガイドが同行するのがベストであるが、それは難しいのであれば、QRコードを表示するとか、音声ガイドを用意する等、英語対策をする必要がある。
4-2(同一人物・重複回答②)	普通	学芸員のお話は、“日本語”では面白かった。っが、今回は、通訳ガイド=ストーリーテラーがいなかったため、どれだけインバウンド旅行客に向けて、“ストーリー”を伝えることができるかについては疑問。美術館内の英

／1月20日)	語表記も非常に限られており、インバウンド対策はまだまだ。通訳ガイドの準備ができなくても、表示にQRコードを付けるなり、音声ガイドセットを配るなり、やり方は色々あると思う。輪島塗のお箸作りは面白かった。が、欲を言えば、ちゃんとした職人さんから手解きを受けたかった。もしそれができたら、もっと価値のある体験になると思う。
---------	--

寿司処 伸福での昼食はいかがでしたか？

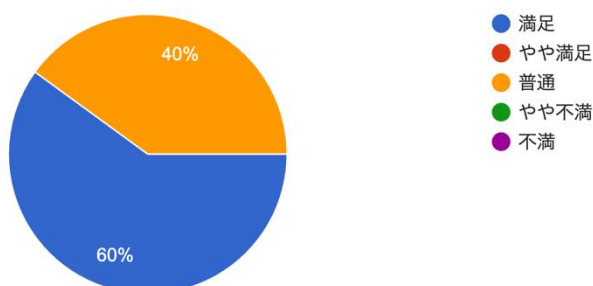
5件の回答



回答 ID	寿司処 伸福での昼食はいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	やや満足	全体的に非常に美味しく、提供スピードも心地よく、地元の食文化を体感できるよい時間でした。一方で、茶わん蒸しに染めた長めの髪の毛が2本混入していた点は残念でした。すぐにご対応はいただきましたが、数口いただいた後だったためショックが大きかったです。
2	満足	お料理のクオリティとボリューム、お店内外の雰囲気、サービス、どれも高評価です。
3	普通	輪島の地元の方よりランチ場所としてお勧め頂いて以降、お客様にもご案内しておりましたので、今回は期待が大き過ぎた為、多様なお品で美味しく頂きましたが、敢えてこの評価とさせて頂きました。特にインバウンドゲストには、量より質重視のメニューがあってもよいかもしれません。 座敷のお席は、インバウンドや高齢のお客様を視野に入れると、椅子席の方がお喜びになると思われます。
4-1(同一人物・重複回答①／1月20日)	普通	普通であったから。輪島塗の器を使っているとか、輪島(石川県)のお魚であるとか、説明があると特別感があるが、そのような対応が全く無かったため。
4-2(同一人物・重複回答②／1月20日)	普通	輪島塗の説明が全く無かったのが残念。輪島にあるお寿司屋さんなので、輪島塗との関わり等、もっと話を聞くことが出来れば良かった。

四十沢木材工芸 Factory's Galleryの工場見学・体験についてはいかがでしたか？

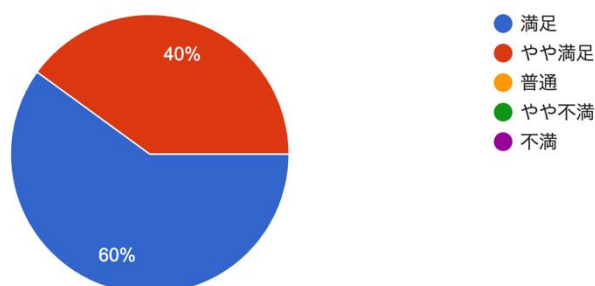
5件の回答



回答 ID	四十沢木材工芸 Factory's Gallery の工場見学・体験についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	二代目のご当主より、依頼に応じて試行錯誤を重ねる中で、木材選定から仕上げまでの技術が身についたというお話を伺い、人の力を最大化する学習の本質を感じました。 工場が震災前に建てられていたことはまさに幸運で、輪島の復興を目指し尽力されている姿にも心を打たれました。また、制作された作品および関連資料はどれもデザイン性が高く、大変印象に残りました。
2	満足	前の設問と同様に、実際の現場の視察を木地屋さんから始めるという設定がまた素晴らしいと思います。ショップに一步入った際の香りと店内の暖かい雰囲気で購入意欲がかきたてられます。木材倉庫で乾燥の様子を間近で見るとは初めての体験であり、とても印象的でした。また、万が一火災が起こったら大変なことになりそうな木材の積み方を見て、身が引き締まりました。
3	満足	輪島塗の分業の一つである木地師さんが、輪島塗とは別の形でその技の魅力を存分にうまく発信なさっていらっしゃる状況を頼もしく感じました。四十沢ご夫妻の想いやお人柄がギャラリーに溢れていて、心地よく素敵でした。
4-1(同一人物・重複回答① / 1月20日)	普通	職人さんが作業をしている様子等見学出来れば良かった。さらに何らかの体験があればなお◎。輪島塗をテーマに見学しているので、輪島塗に沿った内容の職人さんの作業風景を期待していたので、それが見れなかったのは残念。
4-2(同一人物・重複回答② / 1月20日)	普通	日本語でのお話は面白かったが、これをどうインバウンド向きに実施するのかが見えなかった。出来れば、輪島の職人さんによる作業工程を見学したかった。それが全く無かったのが非常に残念。職人さんから手解きを受けてのものづくり体験があれば尚可。

輪島塗しおやす漆器工房の工房見学についてはいかがでしたか？

5件の回答

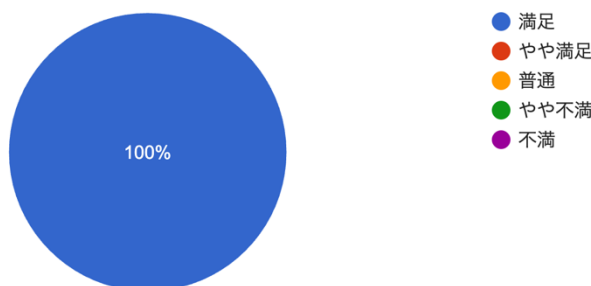


回答 ID	輪島塗しおやす漆器工房の工房見学についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	美術館での学びを踏まえての見学だったため、工程説明もより深く理解できました。職人の方は粹で明るく、質問にも丁寧に答えてくださり、伝統工芸を支える方々の強さと逞しさに触れることができました。輪島塗りの価値とその真髄を理解できる経験でした。
2	満足	塗りの工程を順番にじっくり見ることが出来る作りにまず関心させられました。また、後半で拝見した様々な作品のお値段に一旦は驚かされるも、完成に至るまでの工程を事前に知ることで、すぐに納得させられます。
3	満足	漆芸美術館で輪島塗の行程をご教授いただいた後、今度は実物も目の当たりにして再確認ができました。多種多様な作品、商品販売のショップと同じ建物内で職人さんが実際に作業をなさっている工房が見学可能なのは魅力のひとつと思われまます。ご担当くださった坂本氏？はお話が上手で楽しく説明を伺えました。 四十沢様も同様ですが、インバウンドゲストへの対応として、英語だけでも分かり易い場所に表記が必要かと思われまます。(見落としておりましたら申し訳ございません。)
4-1(同一人物・重複回答① / 1月20日)	やや満足	解説は面白かった。職人さんが作業している様子を見学したり、実際に輪島塗商品を触りながらお話を伺えるのは貴重な体験ではあった。つが、やはり英語表記がほぼ無く、どのようにインバウンド対応をするのか検討の余地有り。個人的には、輪島塗の金継ぎが販売されていたのは興味深かった。欧米では日本よりはるかに金継ぎ (Kintsugi) の認知度が高く人気であるので、同じ漆を使った金継ぎを上手く組み合わせると良いのではと思う。弊社でもエクスペリエンスとして金継ぎを提供しているが、欧米の知的ハイエンド層には大人気で、サステナビリティの点からも輪島との相乗効果が期待出来ると思う。
4-2(同一人物・重複回答② / 1月20日)	やや満足	オーナーの方の話は面白かった。非常に分かりやすく輪島塗への熱い想いが感じられた。職人さんの作業風景を間近で見れたのも良かった。これに何か体験があればもっと良かった。(個人的な嗜好となってしまうが)こちらのお店では、欲しいと思う輪島塗の商品が無かった。良いものがあれば買おうとは思っていたのであるが、衝動買いしたくなるような魅力的な商品

	が無かったのが残念。改めて商品開発の必要性を感じた次第。1つ面白いと思ったのは、金継ぎ KINTSUGI の商品が販売されていたこと。これは非常にチャンスだと思う。欧米では、日本以上に KINTSUGI は、大人気であるので、同じ漆を切り口に、KINTSUGI と絡めて輪島塗をアピールすることも戦略的にアリなのではと思う。これも体験があれば尚可。
--	--

CRAFEAT【クラフィート】での夕食はいかがでしたか？

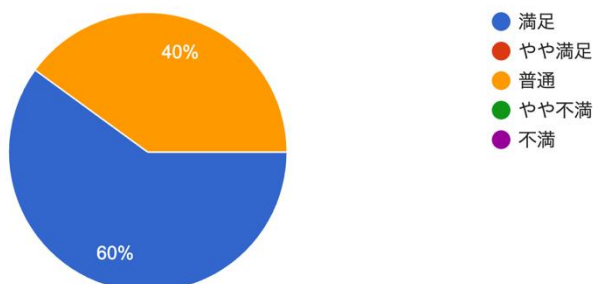
5件の回答



回答 ID	CRAFEAT【クラフィート】での夕食はいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	地元食材を現代的に昇華した料理はどれも絶品で、盛り付けも洗練されていました。 先付から甘味までひたすら「美味しい」が続き、ツアーの締めくりに相応しい満足度でした。さらに、本物の輪島塗の器でいただく食事は格別で、温度を感じさせず食材の味をまっすぐに伝える器としての魅力をあらためて理解できました。「満足」ではなく大満足です！
2	満足	総合的に全てにおいて満足させられました。お料理を目と舌の両方で楽しむことが出来ます。お料理に合わせたシェフの地酒のご提案が素晴らしいかったです。カウンターごしの会話も絶妙です。
3	満足	輪島塗を学び、様々な商品を目にした後、実際に使用させて頂く行程は本当に有益でした。今回で3回目の利用でしたが、毎回、全ての料理がおいしく、シェフとの会話もご馳走でした。今までより一層、輪島塗のありがたみを感じながら頂戴した素晴らしい夕食でした。
4-1(同一人物・重複回答①) ／1月20日)	満足	貴重な輪島塗の器を手に取りながら、地産地消の石川のお料理&お酒を頂けたことは、とても楽しく勉強になった。輪島塗の食器も素晴らしいかったが、もちろんお食事も美味しく、このようなお店がもっとあれば良いのと思う。また料理人の方のお話も面白く、カウンター越しに輪島の復興や輪島塗について会話しながらお食事できたのが素晴らしい体験となった。
4-2(同一人物・重複回答②) ／1月20日)	満足	輪島塗の食器で美味しく頂いた。お食事も美味しかったし、何よりも、シェフ(職人さん)とカウンター越しに会話を楽しみながらお食事できたのが素晴らしい体験となった。輪島の復興状況や輪島塗のうんちく等、(金沢ではあったが)輪島を間近に触れた感じが来て特別感があった。輪島塗の食器で地産地消の素材で郷土料理(石川のお料理)は、唯一無二の体験なので、もっとこのようなスタイルを広めたら良いと思う。

ホテル日航金沢での宿泊はいかがでしたか？

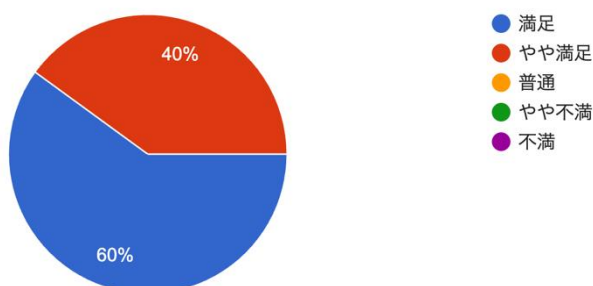
5件の回答



回答 ID	ホテル日航金沢での宿泊はいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	施設全体に年季はあるものの、メンテナンスが丁寧に施されており、日航ブランドの品質の高さを実感しました。お部屋の広さ・清潔感ともに申し分なく、とても快適でした。朝食会場は混雑していましたが、品揃えが豊富で個人的には大変満足しました。朝食会場にいらした皆様も非常にプロフェッショナルで笑顔が素敵でした。どのように教育されているのだろうと興味・関心を持っております。当日の起床が出発時刻の1時間半前だったため、朝食時間が足りなかったのだけが心残りです。
2	満足	十分なお部屋の広さ、お部屋からの夜景、充実した施設、どれも自信を持ってお客様に提案出来る国産ホテルです。
3	満足	申し訳ございません。取り急ぎ、上記回答いたしました。未回答とさせていただきます。
4-1(同一人物・重複回答①/1月20日)	普通	朝食はレパトリーが多く美味しかった。その他は普通。
4-2(同一人物・重複回答②/1月20日)	普通	朝食は美味しかった。

山崎麻織物工場の工房見学・体験についてはいかがでしたか？

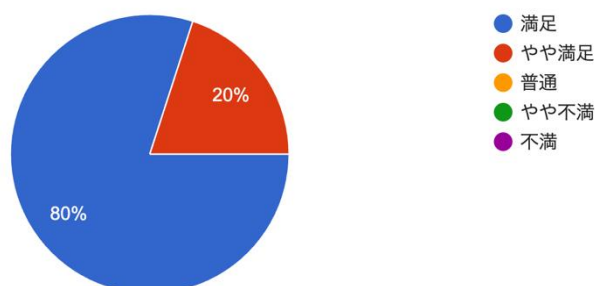
5件の回答



回答 ID	山崎麻織物工場の工房見学・体験についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	麻特有の風合いや手織りの美しさを間近で体感できる貴重な機会でした。ご説明も非常にわかりやすく、皆様の熱意と発信力が素晴らしかったです。作品づくりの奥深さを実感しました。大阪での展示会の直後だったとのことで、商品が限定的だったそうです。今月末には日本橋三越の展示会に必ずお伺いしようと思います。
2	満足	これほどの歴史ある伝統技術がここで唯一存続していることに感激させられました。
3	満足	能登上布の知識がなかったので、今回は大変な学びの機会となりました。糸を製作する段階も複雑でしたので、インバウンドゲストへの説明はなかなか難しい印象を受けました。最後に見せて頂いた玄関横の日本間へ素晴らしく、お言葉にもあったように、商品の展示・販売の空間として活用すれば、より魅力を増すと思います。
4-1(同一人物・重複回答① /1月20日)	やや満足	男性の方の説明がよく分からなかった。女性の方が出てきて説明してくれてから、やっと理解できるようになった。内容はとても興味深く、ぜひインバウンド客にもご紹介したいと思うが、今のやり方だったら、きちんとしたガイド(能登上布について解説できる人)がいない限りは難しいかも。とはいえ、職人さんが作業している様子が見学できたのは非常に良かったし、お部屋をご案内して頂いたのも◎。順番として、初めに1Fのお部屋で商品を見せて頂いてから2Fに上がってお話しをしてもらえば、もっと理解が深まったと思う。
4-2(同一人物・重複回答② /1月20日)	やや満足	説明をする方・説明の仕方に問題あり。サポートの方が出てくるまで、全く話が分からなかった。せっかくホンモノのものづくりであっても、ストーリーが伝わらなければ魅力は半減してしまうので、やり方を改善する必要あり。インバウンド旅行客向けには、もっと工夫すべき。職人さんの作業風景を見学出来たのは良かったが、出来れば何らかの体験をしたかった。

穂濤 離れでの昼食はいかがでしたか？

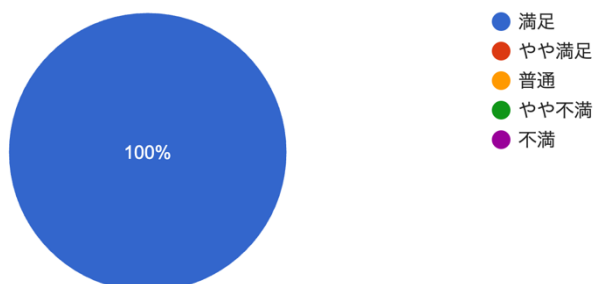
5件の回答



回答 ID	穂濤 離れでの昼食はいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	広大な敷地・上品で風情ある建物の中でいただく日本料理は格別でした。どのお料理も美味しく、特に名物の葛切りは圧巻でした。一方で、訪日客向けというより、一定の知識や経験を持つ日本人にこそ刺さる奥深い味わいだと感じました。
2	満足	総合的に素晴らしく、まさにミシュラン 2 つ星を体感させていただきました。外に散らつく雪が雰囲気を一層いい感じに高めていました。
3	満足	本館にお席をご用意くださったので、設えも素晴らしく大変満足いたしました。唯一、サービスの為に致し方のない事、あるいはそれが正当な事なのかもしれませんが...食事の間中、入口の襖が解放してあった為、当日の雪模様の中では寒さを感じました。もう少し暖かな環境ですと、素晴らしいお料理をより堪能できたかもしれません。
4-1(同一人物・重複回答①/1月20日)	満足	お部屋もお庭も素晴らしくお食事も美味しかった。葛切りは最高。欲を言えば、輪島塗や九谷のお皿の説明等があれば更に良かった。お食事の説明も。
4-2(同一人物・重複回答②/1月20日)	やや満足	お部屋もお庭も素晴らしかった。もちろんお食事も。ただ、中居さんは全く会話をせず、輪島塗や(九谷焼)の説明等も全く無かったので、それが残念。せっかくなので、もっと輪島塗やお料理の説明・ストーリーを伺いたかった。

牛首紬×MIZEN白山店<加賀乃織座>の工房見学・体験についてはいかがでしたか？

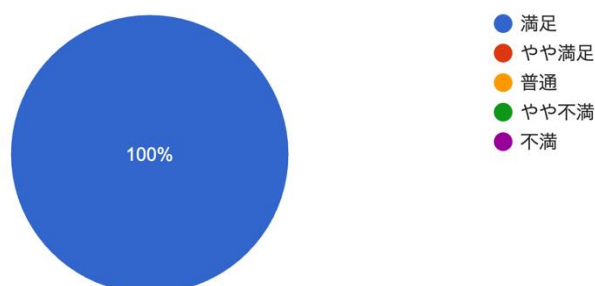
5件の回答



回答 ID	牛首紬×MIZEN 白山店<加賀乃織座>の工房見学・体験についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	社長様の説明が非常にわかりやすく、牛首紬の希少性や高度な技法への理解が深まりました。玉繭と普通繭の違い、糸取り体験、機織り体験を通じ、実際にはいかに高い技術が求められるかを痛感しました。1,100本の糸を整える工程などは、もはや「工芸」を超え「芸術」の域であり、これを事業化することの難しさと尊さを改めて感じました。作品が素晴らしく、つい購入してしまいました。大切に使用させていただきます。年代別により様々な商品展開がなされると購買率アップにも繋がると思いました！
2	満足	玉繭の存在、玉繭から糸を引き出す作業、糸挽き装置の仕掛けに感動しました。西山社長の語りを楽しく分かりやすく、寺西代表の転職に際しての心意気が印象的でした。
3	満足	工房では、白峰村のお話から始まり、玉繭の説明・体験、そして紬の織り方・体験と分かり易く楽しめる順序立てが効果的でした。加賀乃織座では、MIZENさんとコラボした作品が素晴らしく、今後も牛首紬の可能性を信じて応援して参りたいと思います。(去年は石川県文化観光造成支援事業の専門家伴走者としてご一緒させて頂きました)
4-1(同一人物・重複回答①/1月20日)	満足	職人さんの作業風景を間近に見られたのが良かった。また、自ら体験出来たことも、牛首紬に対する理解が深まり非常に興味深かった。西山さんのお話も面白かったし、こちらにはすぐにインバウンド客をご案内出来ると思った。クラフトマンシップ(ものづくり)の原点というか、まさしく、本物の体験。
4-2(同一人物・重複回答②/1月20日)	満足	非常に貴重な体験。職人さんたちの作業を見学出来て、かつ、自らも体験できたのが良かった。昔ながらの工程で、まさしく、日本の伝統産業・伝統工芸・ものづくりと言う感じで、圧倒的な本物感。ホンモノ感満載で、日本のクラフトマンシップ・職人さんの凄さを改めて感じる事が出来た。

加賀友禪毎田染画工芸の工房見学・体験についてはいかがでしたか？

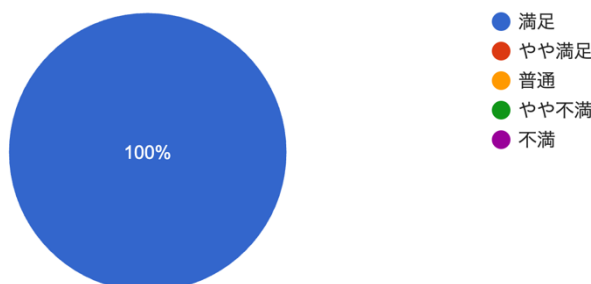
5件の回答



回答 ID	加賀友禪毎田染画工芸の工房見学・体験についてはいかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	ご主人不在のなかご対応くださった奥様(マキさん)の誠実で真摯なお人柄も含め、とても印象深い時間となりました。細密な手描きの技法や色彩表現など、職人技の高さを体感でき、体験プログラムとしても非常に優れていると感じました。
2	満足	友禪染の美しさに言葉がありません。伝統継承と革新を並行して進められているのが素晴らしいと思います。家族経営による技術承継の安定性と、次世代の担い手が確保されていることによる産地の持続性に対し、高い関心と信頼が寄せられた。
3	満足	今までも何度か伺いしておりますが、今回初めて奥様(まき様)にご案内頂き、作家さん目線とはまた違った分かり易さや親しみ易さが印象に残りました。ガラスパネル作品も、本物の力を感じ取った次第です。
4-1(同一人物・重複回答①/1月20日)	満足	職人さんの手仕事を間近に見れたのが良かった。奥様の説明も丁寧。2Fのギャラリーは、まるで美術館のようで、1Fと2Fのギャップが面白い。個人的には、加賀友禪を実際に手に触れることができ(簡単に着せて頂き)まさしく特別な体験となった。解説&職人さんの作業を見た後では別次元の理解・体験。こちらもぜひインバウンド客をお送りしたいと思った。
4-2(同一人物・重複回答②/1月20日)	満足	加賀友禪の説明・職人さんの作業風景見学・体験ありと、インバウンド旅行客向けには、すでに出来上がっていると思う。個人的には、貴重な加賀友禪を羽織らせて(着させて)頂いたので特別な体験となった。1Fと2Fのギャップが面白い。

今回のモニターツアーについて、全体を通していかがでしたか？

5件の回答



回答 ID	今回のモニターツアーについて、全体を通していかがでしたか？	前問の理由、およびお気づきの点やアドバイス等があれば教えてください。
1	満足	<p>伝統工芸・食・文化・職人の皆様との交流など、さまざまな切り口から北陸の魅力の深く体感できる素晴らしい内容でした。移動もスムーズで、時間配分も的確でした。</p> <p>これほどの確かな構成は、手配の正確さに加え、コンテンツ検討段階から専門的知識を持つ方々が携わっているからこそと感じました。</p> <p>能登の地域が歴史を通じて幾度も困難を、知恵と工夫、そして逞しい精神で乗り越えてきたことがよく伝わりました。</p> <p>微力ながら、皆様のお力になれるよう尽力してまいります。</p> <p>この度は貴重なお声がけをいただき、誠にありがとうございました。</p>
2	満足	<p>事前の期待をはるかに超える内容の濃さでした。弊社の欧州からの富裕層の行程にぜひ組み入れたいと思います。また、自分自身、常日頃はファムトリップやモニターツアーなど企画・運営する立場でもありますが、そういった意味でも今回多くを勉強させていただきました。ありがとうございます。</p>
3	満足	<p>まずは石川県の輪島塗、繊維に特化したプランニングが素晴らしく、どれも興味深く体験させて頂き、感謝申し上げます。</p> <p>富裕層ゲストの場合は、今回のようなラグジュアリーバスやハイヤー、ガイドの手配が必須となりますので、よりご満足いただき、的確にお迎えする為にも、例えばセレクトされたガイドさんを対象にした今回のような学び、体験の機会は有効であると考えます。</p> <p>今回は貴重な機会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。</p>
4-1(同一人物・重複回答① / 1月20日)	満足	<p>クラフトマンシップに特化した本物体験として、1日目は輪島塗、2日目は織物と、とても有意義な体験となり、貴重な機会を頂きましてありがとうございました。輪島にはぜひ送客したいと思いつつ、宿泊施設の問題(泊まる所がないとやはり送客は困難)があり躊躇しておりましたが、金沢ベースで行けるところもあるので、ぜひ今後積極的にインパウンド客を送客し、現地で消費してもらうように出来ればと思っております。ただ、宿泊施設問題以外にも、英語表記やガイド(ストーリーテラー)確保等の問題もあり、1つ1つ解決して行くのが大切かと思えます。簡単では無いですが、やはり”本物”に勝るものは無いので、やり次第では十分にイケると確信しました。</p>

4-2(同一人物・重複回答② /1月20日)	満足	1日目は器(輪島塗)2日目は織物/布と分かれていて興味深かった。ホンモノのものづくりと言うことで、実際に職人さんの作業風景を見れたり、実際に体験が出来たのは、非常に貴重な経験となった。出来れば、全箇所ですれが出来れば良かった。もっと言うと、職人さんたちとの触れ合い・交流等が出来ればもっと良かった。ものづくりは、やはり職人さんが全て。日本のクラフトマンシップとして、もっと職人さんにフォーカスするとよりホンモノ感が強まり、唯一無二の体験になると思う。ただ、全体としては、非常に満足度の高い(全てでは無いが)ぜひインバウンド旅行客をお連れしたいと思ったモニターツアーであった。貴重な機会をありがとうございました。
---------------------------	----	---

4. 案件 C：地域内ネットワークの形成業務

4.1 開催概要/実施目的

「中部地域のものづくり＝ホンモノ」にスポットを当てた新たな観光を推進することで、産業振興・地域活性化につなげるため、富裕層（特にモダンラグジュアリー層）から選ばれる地域へと成長するため、富裕層アクセスポイントである専門家（本物のエクスペリエンスを切り口に、海外の本物を求める旅行者に向けた、トラベルデザインを手掛ける者）とホンモノ体験コーディネーター人材・機関の出会いと交流の場として会議を実施。本会議は、今回を「第1回」と位置づけている通り、単発のイベントに終わらせるものではなく、今後も継続的に開催予定。

- **名称**：第1回 中部のホンモノ体験ネットワーク会議
- **日時**：
2026年2月5日（木）13:30～16:20（会議）、17:00～（交流会）
日時（見学会）：2026年2月6日（金）9:30～12:00
- **場所**：中部経済産業局 2階大会議室（名古屋市中区）、風来坊 栄店（交流会）、NOYORI（現地見学会）
- **対象者**：コーディネーター人材（機関）、観光関連事業者等、行政機関
- **目的**：「中部地域のものづくり＝ホンモノ」にスポットを当てた新たな観光を推進することで、産業振興・地域活性化につなげるため、富裕層（特にモダンラグジュアリー層）から選ばれる地域への成長をめざし、富裕層アクセスポイントである専門家（本物のエクスペリエンスを切り口に、海外の本物を

求めるトラベラーに向けた、トラベルデザインを手掛ける者) とホンモノ体験コーディネーター人材・機関の出会いと交流の場を提供する。

- **構成：**
 - 【第1部】 基調講演：専門家によるモダンラグジュアリー層のトレンドとコーディネーターの役割
 - 【第2部】 事例発表（ピッチ）：地域におけるホンモノ体験提供の先進的事例共有
 - 【第3部】 ディスカッション：高付加価値化に向けた課題とネットワークの展望
 - 【交流会】：業種・地域を超えた人的ネットワークの強化
 - 【現地見学会】：伝統技術の観光活用現場（NOYORI）の視察と実演体験

有限会社ノヨリ

愛知県名古屋市にて江戸時代から続く「尾張仏具」の伝統技法、鋳（かざり）金具の製造を継承する企業。名古屋城本丸御殿や全国の寺院の修復を手掛ける高い技術力を持ち、現在はCAD等のデジタル技術も融合させた精密なモノづくりを展開。自社ブランド「和悠庵」を通じ、伝統技法を活かしたアクセサリーや雑貨を国内外へ発信するなど、伝統工芸の新たな価値創造に取り組んでいる。

4.2 参加者について

これまでの「中部のホンモノ体験」に関わった自治体・関係団体等を含め、今後、本格的に「中部のホンモノ体験」の推進を企図する団体等と、アクセスポイントをはじめとした関係事業者等との連携を強化するためのゆるやかなネットワークのあり方の検討と構築を行い、地域産業の維持・発展、地域活性化につながる取り組みに繋げ、同じ課題を抱える地域での横展開を図る。

1.講師

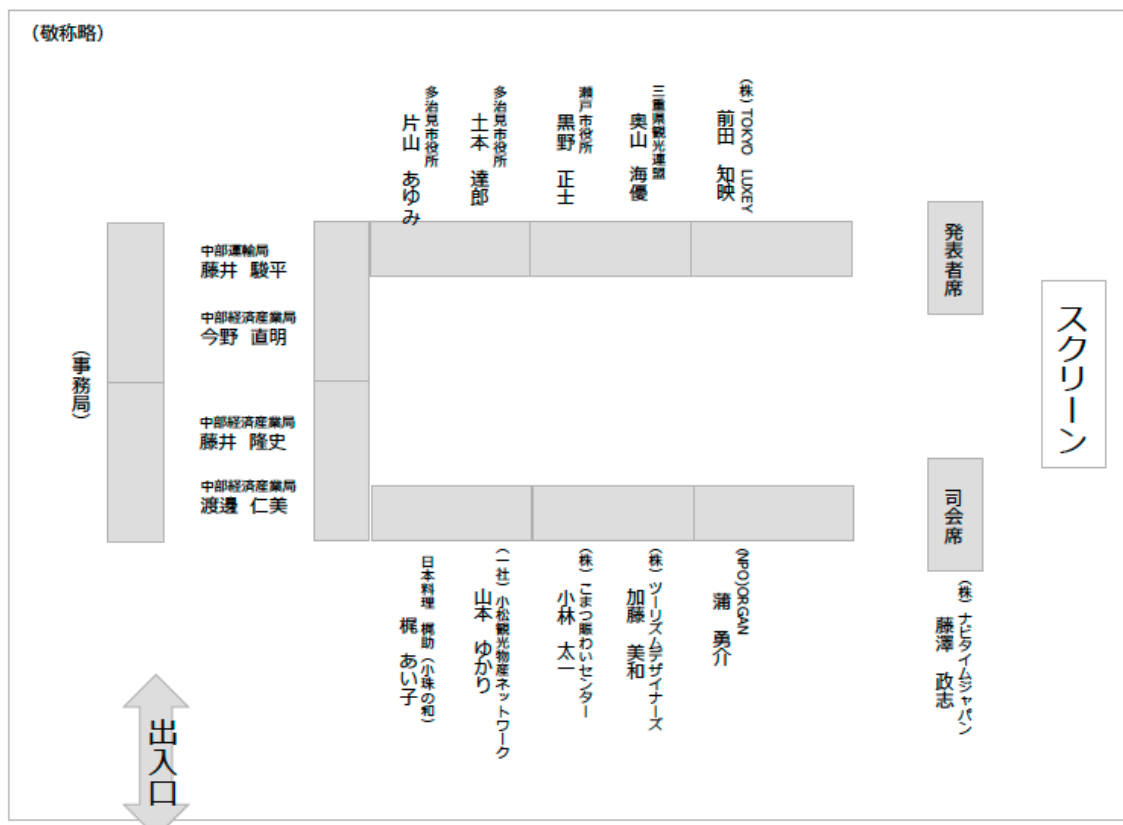
株式会社 TOKYO LUXEY 代表取締役 前田 知映

2.参加者

所属	氏名	2月5日			2月6日	
		講演	発表者	交流会	見学	体験
株式会社 TOKYO LUXEY(講師)	前田 知映	○	○	○	×	×
NPO 法人 ORGAN	蒲 勇介	○	○	○	×	×
株式会社 ツーリズムデザインズ	加藤 美和	○	○	○	○	—
株式会社 こまつ賑わいセンター	小林 太一	○	○	○	○	○
一般社団法人 小松観光物産ネットワーク	山本 ゆかり	○	—	×	×	×
日本料理 梶助 (小珠の和)	梶 あい子	○	—	○	○	○
多治見市役所 商工観光課	土本 達郎	○	—	×	×	×
多治見市役所 観光誘客推進員	片山 あゆみ	○	—	×	×	×
瀬戸市役所 商工観光課	黒野 正士	○	—	×	×	×
三重県 観光連盟	奥山 海優	○	—	×	×	×
中部運輸局 国際観光課	藤井 駿平	○	—	×	×	×

3.事務局

所属	氏名
株式会社 ナビタイムジャパン	藤澤 政志
中部経済産業局 産業部 次長	今野 直明
中部経済産業局 流通・サービス産業課	藤井 隆史
中部経済産業局 流通・サービス産業課	渡邊 仁美
中部経済産業局 流通・サービス産業課	水崎 佳子
中部経済産業局 流通・サービス産業課	松室 智美
中部経済産業局 流通・サービス産業課	安藤 響平
中部経済産業局 流通・サービス産業課	今井 佳苗



4.3 当日プログラムの詳細

日付	時間	スケジュール
2月5日 (木)	13:30～ 13:45	中部経済産業局の事業説明・ネットワークの趣旨説明
	13:45～ 14:00	参加者自己紹介
	14:00～ 14:45	基調講演:ホンモノ体験コーディネート人材・機関(仮称)の 必要性・求められる役割 株式会社 TOKYO LUXEY 代表取締役 前田 知映 氏
	14:55～ 15:40	参加者の取り組み紹介(15分×3組) 株式会社こまつ賑わいセンター／小林太一 株式会社ツーリズムデザイナーズ／加藤美和 NPO 法人 ORGAN／蒲勇介 (観光・文化資源とホンモノ体験の取り組み紹介・現状の課題の共有／ピッチ形式のプレゼンの場)
	15:45～ 16:15	全体ディスカッション
	16:15～ 16:20	閉会

	17:00	交流会
2月6日 (金)	09:30～ 12:00	【現場見学会】NOYORI - 有限会社ノヨリ (名古屋市中区上前津 1-3-22)

第1回ネットワーク会議：2月5日（会議）当日の内容

- ・局 開始あいさつ
- ・局 事業説明

基調講演

タイトル	ホンモノ体験コーディネーター人材・機関（仮称）の必要性・求められる役割
講演内容	<p>インバウンド、ラグジュアリートラベルについて、TOKYO LUXEYの視点での考え方などを聴講。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグジュアリートラベルの客は、アメリカが半分と欧米を中心としており、中国はいない。 ・ラグジュアリートラベル市場の仕組み BtoBがほとんど。現地の人、海外エージェントに知ってもらうことが重要。紙での紹介はほとんど読んでもらえないので、動画中心となる（動画にはモデルを入れること）。タッチポイント以下の3つ <ol style="list-style-type: none"> 1. ① 商談会（参加自体に条件があったりする） 2. ② 都内・関西圏のラグジュアリーホテル...コンシェルジュ経由で紹介。 3. ③ ラグジュアリートラベラー対象クレジットカード会社 ・ラグジュアリートラベルにおいてはマストラベルと違い、価格での勝負はしない。本物を理解し、対価を払ってくださる方を対象とする（工房・地元にお金が落ちるようにする）。 ・ラグジュアリートラベラーが求めるものは「高額であるもの」ではなく特別感のあるもの、本物の体験、フレキシブルな対応をしてくれること、本物であること、五感で感じる（魂を揺さぶられる）体験であること、プロ（職人）との対談や交流、現地の人々との交流、通常ではたどり着けない場所や会えない人との出会い ・ストーリーを語ることでできるガイドが重要。コンテンツの内容がよくてもガイドがよくなないと評価が低くなる。 ・日本が平和、安全、食べ物がおいしいと、すてきな国であることが世界にはれた。クラフトマンへの尊敬、あこがれもあり、有望な市場。日本をあまり知らないことから東京に集中しているので、ほかの地域を伝えていくことが必要（チャンス）。刀鍛冶、金継ぎは非常に人気。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は人材不足もあって、ホテルコンシェルジュも十分な知見がないので、当社に丸投げのところもある。ホテルを介しているため、送客においても決済取引においても良い。
--	--

参加者の取り組み紹介

株式会社こまつ賑わいセンター／小林太一	<ul style="list-style-type: none"> ・2,300年前というのは、日本で大きな地形変更があり、今の地形ができた頃 ・小松の観光については、属人的ではあるが横の繋がりが生じつつある。 ・加賀料理は九谷焼を使うことで、食べ終わっても机がきれい（寂しくない） ・華道、茶道がライフスタイルとして日常の生活に残っている。 ・富裕層の受け入れについてはこれからだが、少しずつ動きがあるため、是非小松を見に来ていただきたい。
株式会社ツーリズムデザイナーズ／加藤美和	<ul style="list-style-type: none"> ・地域DMC。DMO（愛知観光協会）と連携してやっている。 ・BtoCも取り扱っているが、収入としてはほんの一部で、BtoBがほとんど。BtoBについては、リクエスト制であり、HPはカタログ的な案内に使っている。 ・2年前から海外商談会に参加。ILTMの審査に通った。商談会での営業だけでなく、その前後での訪問、海外エージェントの日本支社にて旅行商品を紹介するなどフォローアップに努める。 ・名古屋のホテルでは、コンシェルジュ機能が重視されておらず、観光案内はフロント係が担っている状態。人不足も有り、名古屋のことを知らない方がコンシェルジュをしている。（日本語を話せない外国人の方の場合もある）名古屋のコンシェルジュの集まりが月に一度あり、そこに参加している。コンシェルジュのコンシェルジュ状態になっており、丸投げ状態で仕事を受けている。 ・名古屋は観光地化されていない。愛知に来たら「ジブリパークと大相撲」 ・東京、大阪、京都はオーバーツーリズム状態。他へ行きたい需要がある。 ・最近始まったもので「スナックホッピング」。通訳ガイド付きでスナック2軒へ行く。「芸者体験」もしており、稽古場を見ることができる。 ・通訳ガイドに対して、クリス・グレンさんに講師をしてもらって、外国人への伝え方を教えてもらう研修をしている。コンテンツと同じ体験をしてもらっている。 ・通訳ガイドの方は、一部外国語教室の講師をしている方もいるが、ほとんどが専門。会社で抱え込んでいる訳ではなく、他へ所属している方もいる。通訳ガイドリストを作って対応している。他エリアへ行かれる場合は、その土地の観光協会へ繋いでいる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような人を紹介できるか？繋がりを持っているかが重要
NPO 法人 ORGAN／蒲勇 介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「長良川流域で取り組むサステイナブルツーリズム」を造成。地域DMCとして活動しており、海外のモダンラグジュアリーについてはまだアプローチできていない。 ・ 誘客を初めて一年ほど、ツーリズムデザイナーズを入れて現在3社ほどと取引している。 ・ 「鶺鴒い」というと「アニマルウェルフェア」から忌避されてしまうが、きちんとした説明をすることで受け入れてもらえる。 ・ 船遊びでは、舞妓・芸妓とともに遊ぶことができる。 ・ サイクリングプログラムを作成しており、ガイドの養成中。

2月6日（会議）現場見学会

当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階が工房、2階にワークショップスペースを作った。もともとは工房の一角でワークショップを行っていた。2階にはアクセサリー等の商品の展示・購入スペースもある。 ・ ワークショップについては、もともと小学校向けで行ったりもしていたので、出張での実施もできるが、持ち出せる道具に限りがあるため、仕上がりに差が出る。 ・ ワークショップの前に「尾張仏具」について、モニターを使いながら地域の歴史を交えて、大須観音周辺のこの地域に尾張仏具関係事業者の集積があるのか説明。NOYORIは尾張仏具の中でも装飾飾り＝鍔金具。鍔とは飾と同じ意味を持った国字。「尾張仏具」自体にはこういうものという形はなく、できあがるものの形の違いは宗派によるもの。宗派に合わせた形で生産、出荷している。祭の山車などにも使われており、現在は新しく作るというよりも修繕の方が多い。全国から依頼があるが間に問屋が入る形態。インバウンドの受入れについては、一昨年くらいから行っており、年4、5回受けている。これから増やす予定。もともとは市か県の事業で始めていたが、そこから独立したところと一緒にやっている。「たがね」という道具を使っているが、この「たがね」について作れる職人さんが今は一人しかいない。80代の方で跡継ぎがいないので、メンテナンス等を自分たちでできるようにワークショップで習っていく予定になっている。
-------	--

① 1日目:会議の様子



② 2日目:
NOYORI アクセサリー
等製作体験/工房見学



5. まとめ

5.1 ネットワーク構築の有効性の考察

国内全体の人口減少が進む中で、各地域においてそれぞれの資源を活かした交流人口の拡大については、各方面で必要性が叫ばれている。特に中部エリアでは、歴史的にも「ものづくりのメッカ」と呼ばれ、伝統工芸を活用した観光への取り組みは、地域活性化に重要な手段であると考えられる。

本事業では、伝統工芸の事業者と観光関連事業者とのネットワーク構築を目的に、イベント（職手継祭）とモニターツアー、そしてネットワーク会議の3本柱で事業を行なった。

① イベント（職手継祭）

各事業者が伝統工芸品を展示するだけでなく、観光事業者を対象としたブースツアーの時間を設けた。集中的に自社のプロダクトの解説を行い、魅力を発信することで、観光コンテンツとしてどのように旅に組み込むかを考えてもらう足掛かりになったと考える。そして、伝統工芸事業者をターゲットしたトークショーでは、好事例の解説を行い、どのように観光事業者と連携すべきかインプットを行ない、時間外にも意見交換をする姿もあり、両者にとって有意義な場になったと推測する。

② モニターツアー

石川県を訪問したモニターツアーでは、観光関連事業者の中でもインバウンド富裕層を得意とする方々へお声かけし、各工芸品の制作現場を訪れ、臨場感を持って凄みを伝えることができた。旅行会社の担当者が、事業者への観光視点でのアドバイスだけでなく、より深い魅力を引き出すためのヒアリングをする様子も見られ、職人たちとの対話を通して担当者自身がファンとなったことで、今後の連携に向けたファーストステップを作り出せたと感じている。

③ ネットワーク会議

ホンモノ体験コーディネーター人材・機関と、富裕層アクセスポイントである専門家との出会いと交流の場として開催したネットワーク会議では、より具体的な議

論が行われた。地域を束ねる DMC 等の事業者が、膝を突き合わせてじっくりと議論する形は、イベントやツアーにはない「会議」という形式ならでは、非常に重要な施策であったと感じた。

本事業全体を通して、コミュニケーションなしには深い連携は起こり得ないことを再確認し、そのためには今回の 3 つの施策が必要であった。

今後は、職手継祭の開催とモニターツアーの実施で得られた知見を、今後の中部エリアにおける商品造成の指針として活用する。

ネットワーク会議については、今回の第 1 回会議を起点に継続的に開催し交流の場を設けることで、富裕層アクセスポイントである専門家と、各地の「ホンモノ体験」を支えるコーディネーター人材・機関の結び付きを強め、「ゆるやかなネットワーク」を拡大・定着させることで、中部エリア全体での自立的な観光振興と伝統産業の維持・発展の一助となる可能性が高く、最初のきっかけとしてネットワーク構築の機会や場を設けることが連携を加速させる可能性があると考えられる。

しかしながら、観光の専門家が地域と伴走するにあたり、地域側での企画や調整をとりまとめるコーディネーター機関・人材が不可欠であり、来年度以降は関係構築の機会を醸成しながらも、地域側での人材の発掘や人材育成に展開していくことが重要である。